

## 最近の三宅島の火山活動（その7）

### Recent activity of Miyakejima Volcano (7)

# 気象庁地震火山部・三宅島測候所 湯山 弘明[1]

# Katayama Hiroaki Seismological and Volcanological Department, JMA and Miyakejima Weather Station, JMA[1]

[1] -

[1] -

#### 1. はじめに

三宅島では、依然として多量の火山ガスが放出され続けており、2000年9月以来の全島避難が続いている。噴火は2002年11月24日以来発生しておらず、全体として活動は緩やかな低下傾向を示しているが、2002年夏以降は火山ガス放出量が横這いとなるなど低下傾向はあまり顕著でなくなっている。

#### 2. 噴煙活動と火山ガスの放出量

気象庁は、防衛庁・海上保安庁・警視庁・東京消防庁の協力を得て、COSPECによる二酸化硫黄放出量の観測を実施してきた。2000年秋には、一日当たり7万トンを超える最大値が観測されたが、その後は、長期的には減少傾向となり、2003年夏以降は、一日あたり3千～約1万トン程度でほぼ横這いである。

#### 3. 火口温度

赤外線熱映像による上空からの観測で、2002年初頭までは、山頂火口底の温度は450を超える値が観測されたこともあり、山麓のカメラによる遠望観測で火映現象もみられた。しかし、その後は長期的には最高温度は低下、高温の領域の面積も小さくなってきている。

#### 4. 地震活動と微動の発生状況

地震活動は全体的に大きな変化はない。

発生頻度については、高周波地震は2002年7月以降、一月あたり50回程度発生している。高周波地震の震源は、山頂火口直下浅部で、2001年以降の従来からの発生場所に大きな変化はなかった。2002年7月以降、「やや低周波の地震」が増加し始め、2004年1月まで、増加傾向が続いた。時々、「やや低周波の地震」は続発することがある（2004年1月11日、1月23日、1月25日など）。これらの多発時に対応する、表面現象の変化は観測されなかった。連続微動は2000年7月から9月は振幅が大きかったが、2001年5月頃にかけて、振幅の大きさは低下した。その後、振幅の低下傾向は穏やかになり、2003年7月頃には、基準点の地震計

（火口の北2.5km）で観測下限限界のレベルまで低下した。その後2003年8月半ばから、微動の振幅はやや増大し、2004年2月現在までほぼ同じ大きさで続いている。

#### 5. 地殻変動

2000年噴火以降、地殻変動は島の収縮を示していたが、その収縮率は徐々に小さくなっている。